大分大学教職大学院
教職大学院2年間の学修の総まとめとしての教育実践研究フォーラム
（パネルディスカッション：「心理的安全性の視点から学校づくりと教育実践を考える」）

フォーラムの目的：

教職大学院における2年間の学修・研究の成果を，関係者等に発表し共有することで，広く大分県の学校に波及効果をもたらし，学校改善につなげる。また，この過程の中で紡ぎ出された課題について協議する場を設けることにより，教職大学院の使命や存在意義を確認する。

フォーラムの内容：

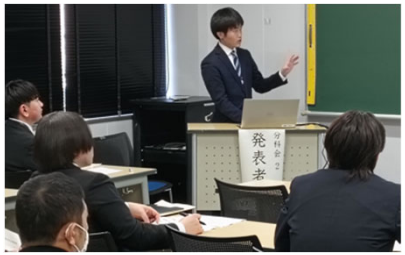
第1部教育実践研究報告会と第2部パネルディスカッションからなる。今回は「心理的安全性の視点から学校づくりと教育実践を考える」を軸として，学修・研究の実践的意義を共有する構成とした。第1部と第2部は不可分の関係にあり，それを覚醒させる営みこそが教職大学院の使命であることを進行の中で随時確認した。

日程・参加者等：

参加者の対面交流を重視し，対面のみの開催方式をとった。令和8年2月20日(金)12:50～17:00に実施した。参加者は78名，教職大学院の関係者を除くと，教育委員会関係12名，学校関係13名，同窓会5名の参加であった。

成果と課題：

平日午後の開催であったが，多数の関係者の参加があった。第1部の報告会は若干窮屈な設定であり，ゆとりをもった交流への要望があった。パネルディスカッションは，フロアーとの意見交換も充実しており，壇上だけの遣り取りに終始せず，活気溢れたものとなった。



第1部教育実践研究報告会の様子。現職院生は実践に基づく実証研究を，学卒院生は授業・学級活動を通じた児童生徒の成長を見取る研究を発表した。多くの励ましの意見が寄せられた。

第2部パネルディスカッションの様子。安部直子教頭(大分市立竹中中学校)，吉本研二課長(杵築市教育委員会)，廣田秀俊校長(附属小学校)による報告の後、木村典之教育次長(大分県教育庁)からコメントをもらった。コーディネーターは本学教職大学院の内田昭利教授が務めた。

第2部パネルディスカッションの関心度である。肯定的な意見で占められた。自由記述も精査して，次年度につなぎたい。